

平成 23 年度 先導的大学改革推進委託事業  
「諸外国における獣医師養成制度に関する調査研究」

調査訪問大学名： シドニー大学獣医学部（オーストラリア）  
調査訪問時期： 平成 23 年 8 月 14 日～平成 23 年 8 月 20 日（7 日間）  
調査訪問者氏名： 今川 智敬、保坂善真  
訪問時の対応者名：

Prof. R. Taylor (Dean of Faculty)  
Prof. K. Johnson (Associate Dean of Veterinary Clinical Services)  
Dr. J. Baguley (Professional Practice and student internship program  
Coordinator)  
Ms. S. Ray (Faculty manager)  
Mr. A. Chaves (Sub dean international)  
Dr. A. Dart (Clinical Research and Training)  
Ms. L. Vogelnest (Superintendent Veterinary Teaching Clinic Camden)  
Prof. P. Windsor (Professor of Livestock Health and Production)  
Associate Prof. T. Mogg (Associate Dean of Learning and Teaching)  
Prof. M. Ward (Chair Veterinary Public Health and Food Safety)

【シドニー大学獣医学部の沿革】

- (1) 設置形態：州立（ニューサウスウェールズ州）
- (2) 沿革：1910 年に獣医学部設立
- (3) 概要：

シドニー大学はオーストラリア最大の都市シドニー市(人口 450 万人)の中心部に位置しており、1850 年に開校されたオーストラリアで最大、最古の大学である。16 の学部を有し、学生総数 49,061 名、教職員数 3,067 名の総合大学である。獣医学部は 1910 年の設立で、オーストラリアの獣医学部として最も歴史が古い。

【獣医学教育の特色】

シドニー大学獣医学部はシドニー大学内にあるメインキャンパスと、シドニーから南西 70Km に位置するカムデン市内のカムデンキャンパスを有している。メインキャンパスには獣医学部本館、病理学棟、カンファレンスセンター、教育動物病院（University Veterinary Centre）を有しており、1—3 年生の基礎教育と 4、5 年生臨床教育、特に小動物臨床の教育が行われている。カムデンキャンパスでは大動物を中心とした教育病院並びに大動物実習、研究施設を有し、主に大動物臨床の教育が行われている。

【学部教育】

獣医学部は 5 年生であり、1 年生から 3 年生までは主にシドニーキャンパスにおいて基礎獣医学・病

態予防学（細胞生物学、生化学、獣医解剖・生理学、臨床病理学、獣医微生物学など）を学ぶ。4年生では一部カムデンキャンパスにおいて、3年生までの単位取得を前提に、産業動物に関連した科目、麻酔外科、画像診断、公衆衛生について教育を受ける。

5年生では臨床ローテーション実習を中心に臨床教育を受ける。15週ごとにシドニーキャンパスとカムデンキャンパスを移動し、小動物臨床および大動物臨床の実習を行う。4週間の民間病院での実習および公衆衛生実習も課されている。

### 【教育施設】

シドニーキャンパスの獣医学部本館には講義室3室（90人、100人、100人収容）、コンピューター室（150人収容）、学生コモンルーム、食堂、更衣室、解剖学研究室および解剖実習室（125人収容）などが設置されている。また隣接する建物に生理学および実験動物研究室、実習室（2部屋、60人、90人収容）を有する。病理棟には病理解剖学、臨床病理学の研究室があり、セミナールーム（20人収容）、更衣室などを有する。カンファレンス棟には250人収容可能な講義室と小さな実習室がある。教育動物病院は診療施設に加え、剖検室、セミナールーム（2部屋、30人、20人収容）を有する。

カムデンキャンパスのカムデン教育動物病院には診療施設に加え、チュートリアルルーム（40人収容）、剖検室、夜間診療時の学生宿泊施設（6人収容）を有する。その他に馬実験生理学棟、Farm Animal Health and Production Research（教育用避妊去勢手術、実験室、魚類飼育施設を含む）、一般教育棟（250人収容可能な講義室、レストランを含む）、野生動物保護センター（エキゾチックアニマルを含む野生動物の保護・診療）、5年生の臨床実習時のための宿泊施設（120人宿泊可能、レクリエーションルーム、調理場を含む）、図書館、動物生産棟、馬棟（馬の扱い・トレーニングの教育に使用、30頭の馬を飼育）、乳牛・肉牛研究棟（研究用）、ニワトリ研究棟（1,000羽のニワトリを飼育）、乳牛・羊・豚の教育研究棟、乳牛棟（実習用の乳牛400頭を飼育）などの施設を有する。

### 【獣医学生】

一学年120名で、70%以上が女子学生、20%が外国人学生である。国内の入学学生の50%は高校卒業後直接、50%は他学科あるいは他大学において生物学を履修した学生である。選考については大学生についてはGPA、面接、書類選考により選抜される。2010年には高校卒業生320人、大学生300人、外国人85人の応募があり、それぞれ46、47、37人が合格している。外国人の出身国の内訳はU.S.A.、カナダ、シンガポール、香港、マレーシア、ノルウェー、日本である。卒業生の70%は小動物臨床に、10%は大動物臨床、5%は公務員に就職している。

### 【調査結果】

#### 2) 海外諸国における獣医科大学の一般的な設置・運営状況。

##### ① 獣医科大学の規模（動物病院も含む）：

スタッフ： 教員数：86（男女比）\_\_\_\_、外国人教員数：\_\_\_\_

（教授25、准教授20、助教26、その他15）

サポーティングスタッフ数：事務職員44、技術職員113

学部学生：昨年度志願者数 705、入学者数 120(男女比\_\_\_\_、  
外国人留学生 37)、学部総数 604(男女比 128：476、  
外国人留学生 152)

大学院学生：昨年度志願者数\_\_\_\_、入学者数(男女比\_\_\_\_、  
外国人留学生\_\_\_\_) 院生総数 151(男女比 54：97、  
外国人留学生 21)

施設： 建物の総面積(概算)：\_\_\_\_m<sup>2</sup>、実験動物飼育施設(面積、収容動物数の概算)：  
面積 収容動物数、非密封 RI 用施設(面積)\_\_\_\_、図書施設(収容人数 181 席)、  
講義室(数 4 室、合計 580 席) 実習室(数 10 室、合計 465 席)、自習室(数、  
収容人数\_\_\_\_)、その他(目的と収容人数\_\_\_\_)、教育支援コンピューター  
室(数 1 室、125 席)、大学キャンパス外の教育支援施設の有無○

教育研究運営資金の調達：予算総額 \$ 30,904,543

国(州など) \$5,435,955、競争的資金(民間からの資金) \$2,028,510、  
動物病院の診療報酬 \$4,736,226

## ② 動物病院(数 2)

動物病院の規模：【シドニー教育動物病院】

スタッフ：教員数 45、レジデント数\_\_\_\_、サポータースタッフ数(事  
務職員 15、技術職員 20)、入院可能動物数(犬 51、猫 31) 大動物診療室 0、小  
動物診療室 8、内科系処置室 3、  
外科手術室 3、集中治療室 1、救急獣医療施設の有無○、その他\_\_  
診療科の分野：循環器科、歯科、画像、内科、神経科、栄養科、腫瘍科、眼科、  
麻酔科、臨床病理科、小動物外科

高額設備の有無：レントゲン写真撮影装置 3、超音波画像診断装置 1、X 線断層撮影装置 1、  
X 線照射装置 0、MRI 1、内視鏡検査システム 1、

動物病院の規模：【カムデン教育動物病院】

スタッフ：教員はシドニーキャンパスと兼任が多数。

獣医師 18、レジデント数、サポータースタッフ数(事  
務職員 8、技術職員 12) 入院可能動物数(牛 4、馬 13、豚 6、羊 6、犬 6、猫 4)  
大動物診療室 ○(馬、牛、羊、豚)、救急獣医療施設の有無×、その他\_\_  
診療科の分野：鳥エキゾチック診療科、循環器科、歯科、画像診断科、内科、  
神経科、栄養科、腫瘍科、眼科、ペインクリニック(麻酔科)、臨床病理科、  
小動物外科(軟部外科、整形外科)、馬診療科(内科、外科)、産業動物診療  
科

高額設備の有無：レントゲン写真撮影装置 2、超音波画像診断装置 1、X 線断層撮影装置 0、

X線照射装置 1、MRI 1、内視鏡検査システム 1、  
核医学システム 1 (馬用)

財務内容 (年間) : 寄付金 (金額) \_\_\_\_、診療売上金 (金額) \$6,000,000

診療業務への学生参加 : 有無 (大学病院 ○、大学病院外 ○ : 例えば一般の動物病院  
での実習 ○)

診療車の有無○ (目的 : 大動物臨床等)

2) 教育課程 :

教育年限 : 入学要件と終了要件 (最低在学期間 5 年)

教育内容 : カリキュラム (基礎獣医学、病態獣医学など)

教育時間数 : 単位数 240、可能であれば時間数 時間

特例措置 :

\*BSc (Vet) …通常の BVSc の 3 年か 4 年次終了後に 1 年間 supervised research を行うこと  
で授与される undergraduate degree

修士課程 : (専攻、MScVetSc, MVSc, MVetClinStud, MVetStud  
MVPH (Public Health) など )

博士課程 : (専攻、Equine Research, Farm Animal Health & Production,  
Ruminant Nutrition, Animal Genetic & Reproductive Technology  
Veterinary Immunology, Wildlife Conservation など)

教育に用いる言語 : 英語

その他 : 日本と異なる特別な科目等 (疫学等)

学生への支援体制 :

授業料 : (自国学生 \$9,360/年、留学生 \$48,300/年)

授業料免除制度 ×、宿舎の有無 ○

奨学金制度の有無

大学全体で 1,350 種類の奨学金制度 (国、州、個人を含む)

留学生のための支援部署の有無 ○

3) ① 昨年の就職状況 :

職種 : 大動物臨床 20%、小動物臨床 70%、公務員 (5%)、民間企業 \_\_\_\_ (製薬会社など)、  
大学教員 \_\_\_\_、その他 (軍隊 2%)

② 卒後研修 : 卒後研修に関するプログラムの有無 ○ ; 必修ではない

卒後制度の内容 : 大学動物病院の利用の有無 ○ ; 利用料金 無

4) 大学の特色もしくは教育研究で重要視している点は何か?

④ 国際的な獣医学教育の認証システムの有無 : ○

⑤ 平成 21 年 10 月に行われた OIE 主催による世界の獣医学部長会議の方針への

対応：対応

⑥ 大学の特色および教育研究の重要課題最近強化・改善した教育内容

- ・ 新型インフルエンザに関連した教育 ○
- ・ 食の安全に関する教育 ○
- ・ 人獣共通感染症に関するリスク解析と管理 ○
- ・ 海外悪性動物感染症に関するリスク解析と管理 ○
- ・ 遺伝子組み換え動植物に関する食品の安全性確保 ○
- ・ 微生物汚染や化学物質汚染に関する食品の安全性確保 ○
- ・ アニマルウエルフェアに関する取組み ○
- ・ 野生動物の保護管理に関する取組み ○
- ・ 動物実験に関する取組（AAALAC 認定など） ○
- ・ その他： Public health Practice、馬の臨床

【シドニー大学獣医学部 写真資料】

シドニーキャンパス

1923年に建設された学部本館  
講義室も当時の面影を有するが、  
インターネット、プロジェクター等の  
設備を有している。



R. Taylor 学部長と

K. Johnson 副学部長と  
教育動物病院受付



教育動物病院に隣接した  
獣医学部カンファレンスセンター



シドニー教育動物病院 Cat Center  
建物奥に連続してDog Center



シドニー教育動物病院内MRI装置  
(動物用、0.25 T)



シドニー教育動物病院内CT装置  
(16列マルチスライス)



シドニー教育動物病院内  
診察室



入院室



処置室



歯科処置室



手術室



導入室



レントゲン装置  
他に1台、Cアーム1台



超音波診断装置





解剖学標本展示室

解剖実習室  
馬12頭が懸垂されている



カムデンキャンパス



Dr. L. Vogelnest



Asoci.Prof. T. Mogg





教育用 馬飼育施設



教育用 羊飼育施設



カムデン教育動物病院全体像



カムデンキャンパス  
一般教育棟



馬実験生理学棟内  
馬用シンチグラフィ

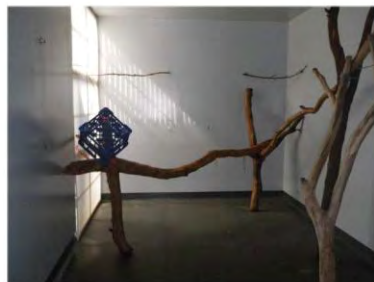


トレッドミル



馬用レントゲン室

野生動物保護センター内



カムデンキャンパス内放牧場と学生宿泊施設

平成 23 年度 先導的大学改革推進委託事業  
「諸外国における獣医師養成制度に関する調査研究」

調査訪問大学名： 国立ソウル大学獣医学部（韓国）  
調査訪問時期： 平成 23 年 11 月 17 日～平成 23 年 11 月 18 日（2 日間）  
調査訪問者氏名： 伊藤茂男、梅村孝司  
訪問時の対応者名： Prof. Dr. P. D. Ryu, Dean  
Prof. Dr. H. Lee

【国立ソウル大学獣医学部の沿革】

国立ソウル大学設置令（1946 年）によりソウル農業大学内に獣医学講座として設置され、翌 1947 年に独立分離して獣医学講座となった。1953 年に新たに国立ソウル大学獣医学部として設置が認可され、翌 1954 年に動物病院が設置された。その後 1997 年に新たな動物病院が設置された。1962 年に再度農業大学の一部門として出発し、その後大学制度の変遷を経て 1998 年に 6 年制の国立ソウル獣医学部として改編され、今日に至っている。1946 年から 2006 年までの卒業生数は 2,737 名、同修士課程は 858 名、および同博士課程は 278 名である。

【学部教育と獣医学教育の特色】

国立ソウル大学獣医学部の教員は教授 26 名、准教授 7 名、講師 28 名、助教 5 名、その他 9 名の計 77 名からなり、他に事務職員が 33 名在籍する。韓国の私立 1 獣医科大学を含む 10 獣医科大学内における先導的役割を果たすべき獣医科大学として、特に食品衛生学や動物福祉、新たな動物と人に係わる感染症などの征圧、また近年の動物科学の進歩を支える分子生物学や生物工学などの教育研究に力を注いでいる。

通常のカリキュラム科目実施研究室に加えて、家禽病学、幹細胞・腫瘍生物学、環境衛生学、水棲動物医学の各研究室が設置されている。このほか Animal Cloning and Stem cell Research Center, Adult Stem Cell Research Center, KRF Priority Research Institute for Zoonotic Disease, および Brain Korea 21 for Veterinary Science などの各研究施設を有する。

2007 年の獣医学部入学者数：40 名、在学学生数：221 名、卒業生数：42 名、同年の修士課程入学者数：39 名、修士課程在学者数：78 名、同課程修了者数：18 名、同年の博士課程入学者数：28 名、同課程在学者数：43 名、同課程修了者数：12 名である。

【教育施設】

国立ソウル大学キャンパス内の獣医学部校舎の位置を赤線で囲み示す。獣医学部には動物病院および図書館が付属する。





【調査結果】

3) 海外諸国における獣医科大学の一般的な設置・運営状況。

① 獣医科大学の規模（動物病院も含む）：

スタッフ： 教員数：77（男女比）\_\_\_、外国人教員数：\_\_\_  
 （教授 26、准教授 7、講師 28、助教 5、その他 9）

サポートスタッフ数：事務職員 33

学部学生：昨年度志願者数 180、入学者数 40（男女比\_\_\_、  
 外国人留学生\_\_\_）、学部総数 221（男女比\_\_\_、  
 外国人留学生\_\_\_）

大学院学生：昨年度志願者数\_\_\_、入学者数（男女比\_\_\_、州外生\_\_\_、  
 外国人留学生\_\_\_）院生総数 187（男女比\_\_\_、  
 外国人留学生 38）

施設：敷地総面積（概算）：13,796 m<sup>2</sup>、実験動物飼育施設（面積 985 m<sup>2</sup>、収容動物数の概算）研究施設（面積\_\_\_、収容動物数\_\_\_）、非密封 RI 用施設（面積\_\_\_、図書施設（収容人数 18 席、冊数 15,000 冊）、講義室（数 5 室、各収容人数\_\_\_）実習室（数 16 室、各収容人数\_\_\_）、自習室（数\_\_\_、収容人数\_\_\_）、その他（セミナー室、1 室）、教育支援コンピューター室（数 1 室、収容人数\_\_\_）、

大学キャンパス外の教育支援施設の有無\_\_\_\_

教育研究運営資金の調達：総額\$14,978,734

国（州など）（金額もしくは比率）\$205,944、競争的資金（金額もしくは比率）、  
企業からの受託研究（金額もしくは比率）\_\_\_\_、  
寄付金（金額もしくは比率\_\_\_\_）、自己運用資産（金額もしくは  
比率\_\_\_\_）

## ② 動物病院

動物病院の規模：

スタッフ：教員数 13（大動物\_\_\_\_、小動物\_\_\_\_）レジデント数 23、インターン数 20、技術  
職員数 5、大動物診療室（数）\_\_\_\_、小動物診療室（数）\_\_\_\_、年間総診療件数（大  
動物 27、小動物 12,703、エキゾチックアニマル\_\_、鳥類 56、魚類など 20）、内  
科系処置室（数）\_\_、外科手術室（数\_\_、手術台数\_\_）、集中治療室（数）1、救  
急獣医療施設の有無○、その他、トラウマユニット 2

高額設備の有無：レントゲン写真撮影装置○、超音波画像診断装置○、X線断  
層撮影装置○、X線照射装置○、MRI○、内視鏡検査システム○、  
核医学システム○、屋外運動場/プール○、跛行検査場\_\_

診療科の分野の有無：内科○、栄養科\_\_、皮膚科○、脳神経科\_\_、  
眼科○、歯科○、外科○、腫瘍科\_\_、麻酔科○、  
病理科○、画像診断科○、鳥獣・爬虫類\_\_

財務内容（年間）： 寄付金（金額）\_\_\_\_、診療売上金（金額）\$1,842,880

診療業務への学生参加：有無\_\_（大学病院\_\_、大学病院外\_\_：例えば、シ  
ェルターや一般の動物病院での実習）

社会へのサービス体制：分院の有無\_\_\_\_

診療車の有無\_\_\_\_

## 2) 教育課程：

教育年限：入学要件と終了要件（最低在学期間 6 年）

教育内容：カリキュラム（基礎獣医学、病態獣医学など）

教育時間数：単位数 223、可能であれば時間数\_\_\_\_

特例措置：（ダブルディグリー等、例えば DVM+Master of Veterinary Public  
Health など）\_\_\_\_\_

修士課程：（有 4 年）

博士課程：（有 6 年）

教育に用いる言語：韓国語

その他：日本と異なる特別な科目等\_\_\_\_\_

学生への支援体制：

授業料：（自国学生¥700,000/年、留学生 ¥700,000/年）

授業料免除制度 半額あるいは全額免除、宿舍の有無○

奨学金制度の有無（国\_\_\_\_、州\_\_\_\_、私立\_\_\_\_）

留学生のための支援部署の有無○

3) ① 昨年の就職状況：

職種：大動物臨床\_\_\_\_、小動物臨床 18%、公務員（農林省管轄\_\_\_\_、厚生省管轄\_\_\_\_）、民間企業 50%（研究機関）、大学教員\_\_\_\_、その他 軍関係 27%

② 卒後研修：卒後研修に関するプログラムの有無\_\_\_\_（無の場合：獣医師会が実施？）

卒後制度の内容：大学動物病院の利用の有無\_\_\_\_、（利用料金の有無\_\_\_\_）

4) 大学の特色もしくは教育研究で重要視している点は何か？

⑦ 国際的な獣医学教育の認証システムの有無： 無

⑧ 平成 21 年 10 月に行われた OIE 主催による世界の獣医学部長会議の方針への対応 無

⑨ 大学の特色および教育研究の重要課題最近強化・改善した教育内容

- ・ 新型インフルエンザに関連した教育 ○
- ・ 食の安全に関する教育 ○
- ・ 人獣共通感染症に関するリスク解析と管理
- ・ 海外悪性動物感染症に関するリスク解析と管理 ○
- ・ 遺伝子組み換え動植物に関する食品の安全性確保
- ・ 微生物汚染や化学物質汚染に関する食品の安全性確保 ○
- ・ アニマルウエルフェアに関する取組み ○
- ・ 野生動物の保護管理に関する取組み ○
- ・ 動物実験に関する取組（AAALAC 認定など）
- ・ その他\_\_\_\_\_



【国立ソウル大学獣医学部 写真資料】



国立ソウル大学獣医学部校舎



講義終了時の獣医学部 2 年生



動物病院の受付部



動物病院の研修生達



動物病院の診療施設



小動物用 CT Scan 装置



解剖学実習 (2年生)



人工皮膚を用いた外科実習



Adult Stem Cell Research Center にて



国立ソウル大学事務局